

お話を伺いました



ふんかターミナル  
コーディネーター  
奥田 大介さん  
一般社団法人 M.U.R.A.  
代表理事  
南部 良太さん

「こくベジプロジェクト」と「こくベジ便」  
国分寺市による地方創生先行型事業の一環として始まった「こくベジプロジェクト」は、現在、JA・商工会・観光協会を中心に地産地消という目標に向けて活動しているプロジェクト。その一環である「こくベジ便」は、市内の農家からこくベジを引き取り、地域の飲食店に週2回程度配達。消費者が身近なお店で新鮮な地元の野菜を食べられるよう、大切なインフラの部分を支えている。



こくベジプロジェクト  
こくベジ便

# 縁の下の力持ち「こくベジ便」が 農家と地元飲食店をつなぐ

市街地及びその周辺の地域において行われる都市農業と都市農地。そこには、環境保全や防災空間確保、教育の醸成、農業体験など暮らしを豊かにする多様な側面があると言われますが、地産地消の促進もその役割の一つです。農地面積の割合が都内で3位の国分寺では、地場産農畜産物を推進する「こくベジプロジェクト」が8年目を迎え、都市農業のモデルケースとして注目が高まっています。本プロジェクトの発足当時から農家と使い手のつなぎ役「こくベジ便」として日々野菜の集配をする奥田大介さんと南部良太さんに伺いました。

## 地域のつながりが こくベジ便の稼働力に

2016(平成28)年3月、国分寺市と株式会社リクルートが地元野菜を使ったメニューを市内の飲食店ですすご当地グルメ企画としてスタートした、こくベジプロジェクト。プロジェクトを始めるにあたり、農家から野菜を引き取り、飲食店へと配達する手段がなかったことから奥田さんと南部さんを中心に、「NPO法人めぐるまち国分寺」として野菜の配達を始めました。新聞配達の仕事から離れたばかりだった奥田さんは当時を振り返り、

「市街地及びその周辺の地域において行われる都市農業と都市農地。そこには、環境保全や防災空間確保、教育の醸成、農業体験など暮らしを豊かにする多様な側面があると言われますが、地産地消の促進もその役割の一つです。農地面積の割合が都内で3位の国分寺では、地場産農畜産物を推進する「こくベジプロジェクト」が8年目を迎え、都市農業のモデルケースとして注目が高まっています。本プロジェクトの発足当時から農家と使い手のつなぎ役「こくベジ便」として日々野菜の集配をする奥田大介さんと南部良太さんに伺いました。」

「住んでいる家の周りの農地が宅地になっていく寂しさから、国分寺に農地が残ったら良い、目の前の畑や農家の方たちを知って欲しいと参加しました。そして、こくベジを一発火花ではなく継続的に広めるために日常的な活動の必要性を感じました」と言います。こうして、奥田さんらによって「こくベジ便」が始まりました。



「前職で地域の人や飲食店との関係があり、南部さんと農家さんとも市内のイベント『ぶんぶんウォーク』や地域通貨『ぶんじ』の取り組みのなかで知り合っていたので、このつながりをプロジェクトに活かそうだと思いました」  
また南部さんは、

「例えば農家には、野菜の種類が極端に少なくなる時期や規格が揃っていないと、大きな必要感覚が持てていることも、素です」と話します。また、駅ビルレオ国分寺の店舗での継続的な取り扱いや、企業とのコラボレーションによる支援は大きな後押しとなっているそうです(左下コラム参照)。

「都市農業の良さを伝えるには地元の人の理解や見せ方がカギになります。僕らの工夫はいろいろありますが、参加しやすい環境づくりです。こくベジを使って何かしたいと新しい人が連絡してきたら、厳しい規制は設けずにサポートします。それは売り上げよりもこくベジがさらに広がることを目的だからです」  
そして奥田さんは、

「地場産農畜産物を通じ、地産地消だけでなく地域貢献や生活を楽しむ気持ちを地域のなかに育んできた国分寺の「こくベジ」。都市農業には、農家と地元消費者の双方が価値を感じ、活動を紡ぐという相互理解や、それをつなぐ柔軟な地域の力が必要と言えられるかもしれません。」



## さらに広がるこくベジ 企業・団体とコラボレーション

お二人が着ている「こくベジロゴ入りパーカー」は、ギャップジャパン株式会社の地域貢献プロジェクト「Local Hero & Gap Project」からの進呈品。2020(令和2)年に自治体を含む団体として初選出されて以降、定期的にオリジナル製品の提供を受けるほか、市内農家の畑での農業体験なども開催しています。ほかにもセレオ国分寺内のベーカリーでの季節野菜を使ったフォカッチャの販売や、過去には市内に中央研究所がある株式会社日立製作所によるアプリの試験開発など、こくベジは多くの企業や団体と連携しています。

詳しくは <https://kokuvege.jp>



## うどフェスタ 2023年2月25日(土)～3月5日(日)

国分寺市内の農家が生産する代表的な野菜「うど」の普及を目指して始まった「うどフェスタ」が今年も開催されます。こくベジメニュー提供店で旬のうどを使った特別メニューが味わえるイベント。参加店舗でうど料理を食べた方には先着で、「うどたべましたバッジ(数量限定)」をプレゼントします。

2023年2月25日(土)～3月5日(日)※時間は各店舗による  
場所など最新情報はこくベジのHP参照 同左



うどメニューの一例  
うどたべましたバッジ